

「第6回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2013」 の調査結果に対するリクルート進学総研 小林浩の見解

リクルートでは2003年から、全国高等学校PTA連合会と合同で高校生と保護者の進路に対する意識調査を実施しています。今年の調査結果から見えるポイントは以下の通りです。

<POINT>

- 1) 保護者にとって進学時に最も重要な情報は「進学費用」。
また、7割以上の保護者が、子どもの進路選択のアドバイスは難しいと回答。
景気回復や東京オリンピック決定により将来不安は減少しつつあるが、恩恵は家計まで及んでおらず、教育費負担に悩む保護者の姿が見える。
- 2) グローバル人材に“必要な力”の上位は親子とも「コミュニケーション能力」「語学力」。
必要と思う力のうち、不足している能力のトップは親子ともに「語学力」。

<解説>

1) この調査も6回目になりました。この間、長引く不況の影響を受け、進学に対する保護者の関心は「どうやって入学するか」から「いくらかかって」「将来どうなれるのか」に移ってきました。

今回の調査でも、子どもの進学時に重要だと思う情報のトップは「進学費用」でした(図1)。

また、保護者に子どもの進路選択についてアドバイスすることは難しいかという質問には、前回調査に引き続き7割超(72%)が難しいと感じています。その理由のトップは、毎回「社会がどのようになっているか予測がつかないから」といった“将来不安”となっています。しかし、今回の調査では、その数値が前回調査から減少し、徐々に将来不安が減少していることがわかります。さらに、これからの社会は好ましいかという質問では、高校生・保護者ともに「好ましい」が増加しており(図2)、ここでも将来不安が解消しつつあることが感じられます。その理由を聞いた自由記述では、「景気回復」「東京オリンピックの開催」という言葉が繰り返し登場しています。

調査結果からは、景気回復や東京オリンピックが将来不安の解消に影響を与えていますが、まだ家計にまで恩恵が及んでおらず、教育費の負担に悩む保護者の姿が見えてきます。

2) グローバル社会で通用する人材になるためには、親子とも「コミュニケーション能力」に続いて「語学力」が必要だと考えています。しかし、語学力については、必要だと回答した親子のなかで身につけていると回答した率が最も低くなりました(図3)。必要なのに身に付いていない。

語学力に自身が持てないという親子の回答からは、グローバル社会で通用するのだろうかという、日本の語学教育の課題が浮き彫りになっているのではないのでしょうか。

リクルート進学総研 所長 小林 浩 (こばやしひろし) リクルート進学総研

PRODUCED BY RECRUIT

<プロフィール>

1988年(株)リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や、『ケイコとマナブ』商品企画マネジャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向(教育問題担当)、会長秘書、大学ソリューション推進室長などを経て、2007年4月より現職。文部科学省中央教育審議会 高大接続特別部会臨時委員。現、リクルート進学総研所長 兼、『リクルートカレッジマネジメント』編集長



<リクルート進学総研とは> URL : <http://souken.shingakunet.com/>

高校生、進路選択に関する調査研究機関として、以下の活動を行っています。

- ・全国の大学、短期大学、専修学校など、高等教育機関の経営層向けの専門誌『カレッジマネジメント』の発行
- ・高校の先生を読者対象とする進路指導、キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』シリーズの発行
- ・高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査の実施や社外に向けての情報発信

<取材にお答えできます>

- ・大学をめぐる政策動向全般について
- ・高校生の進路や将来についての価値観
- ・大学のブランド力
- ・高校生、保護者、高等教育機関についての各種データ
- ・マーケット動向や事例など、高校生～大学経営まで教育に関わる内容について幅広くお答えします。

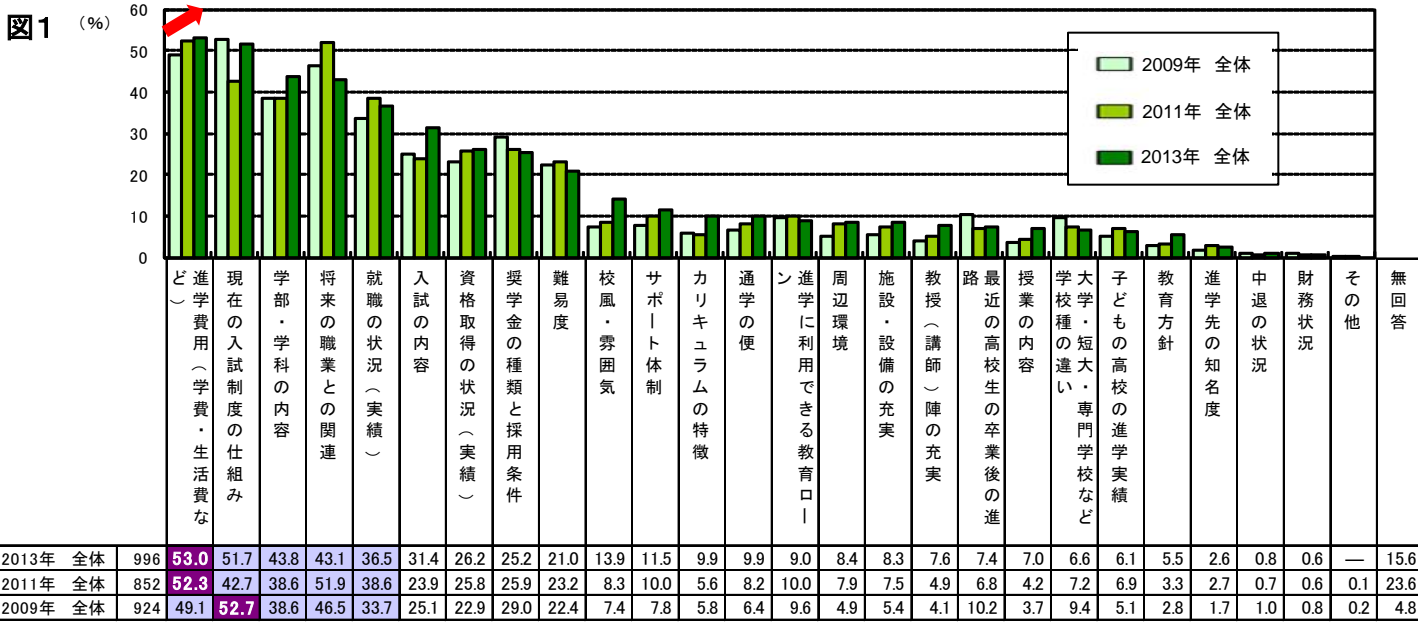
【本件に関するお問合せ・取材のご依頼】株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 広報

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

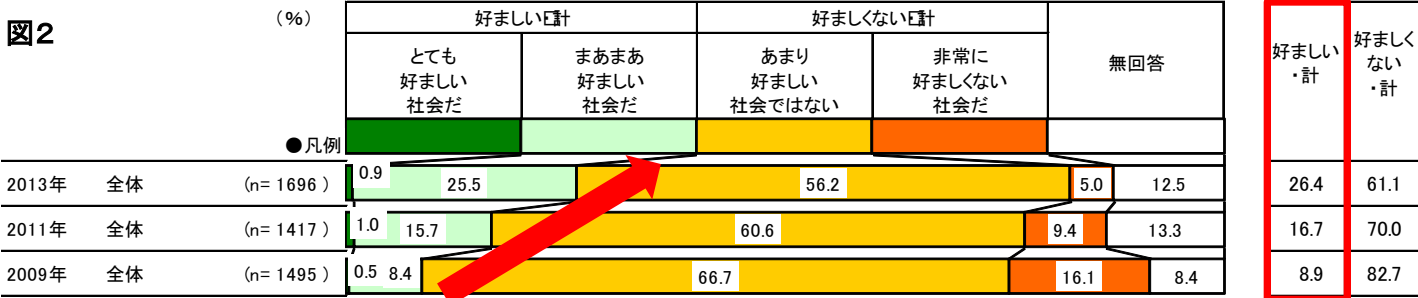
【本調査リリースの全文掲載はコチラ】 リクルート進学総研

<http://souken.shingakunet.com/research/>

【保護者】特に重要な進学情報（進学希望者／5項目まで複数回答）



【保護者】これからの社会は子どもにとって好ましい社会か（全体／単一回答）



【保護者】グローバル社会で通用する人材のための能力と、子どもがもっている力の程度（複数回答・各単一回答）

※「力の程度」は「必要と思われる能力」で選択した各能力について、「もっている」と回答した割合

